

やまゆりポーク生産者協議会の食育授業が各地で行われる

やまゆりポーク生産者協議会※¹では、各会員が経営活動を行っている市と協力し、小学校に給食用豚肉を寄贈、その豚肉を使った給食提供に合わせて、生産者による自農場の紹介を中心とした食育授業を行っています。畜産技術センターは、この取組に協力し食育授業の中で畜産全般や豚の知識、地域の畜産についての授業を担当しています。

11月8日（水）には、藤沢市内の小学校5年生(65名)を対象として当所と全農、くみあい飼料職員が食育授業を行いました。藤沢市は食育に熱心で、やまゆりポーク生産者協議会の食育授業に加え、バターづくり体験や酪農家の授業も実施するなど、生産者の「地元のおいしい豚肉を食べてもらいたい」という想いの伝わる活気あふれる授業となりました。

11月15日（水）には、相模原市緑区内の小学校で5年生(52名)、6年生(55名)の合同で、当所、生産者、全農、くみあい飼料職員が食育授業を行い、児童は「命の大切さ」を訴える生産者の言葉に熱心に耳を傾けていました。

12月12日（火）には、平塚市内の小学校6年生(92名)を対象として当所、生産者、全農、くみあい飼料職員が食育授業を行いました。こちらの小学校では授業後の給食時には校内放送で、「食べ物がどんなふうに、どういう思いで作られているのか、知ってもらって残さず食べてもらいたい」という生産者からのメッセージを全校生徒へ発信しました。

食育授業に参加した生産者は児童たちと一緒に給食を食べて、自分たちが提供した豚肉を使った給食の味を児童たちと確かめながら、交流を深めていました。

今年度は「かながわ畜産の日※²」が制定されたことから、当所が担当する授業ではチラシ、グッズ等を配布し、「かながわ畜産の日」の啓発にも取組みました。今後とも家畜や地域の畜産に対する理解が深まるよう、やまゆりポーク生産者協議会の取り組む食育への支援を行っていきます。

※1 やまゆりポーク生産者協議会：県内8農場で構成。JA全農かながわが事務局を務める。

※2 かながわ畜産の日： 11月の第一日曜日
(一社)神奈川県畜産会が県内畜産物のPRのため (一社)日本記念日協会へ登録



藤沢市内小学校での当所職員の授業風景



やまゆりポークの生姜焼き等、市内産品を使用した藤沢市内小学校の給食

たくさん、畜産、かながわ産。
11月第一日曜日は「かながわ畜産の日」



日本のアイスクリーム発祥の地
横浜・馬車道

県産畜産物の品目別生産量(令和3年)

牛乳 73万人分 (一人当たり年間消費量39.6kg)
豚肉 44万人分 (一人当たり年間消費量20.9kg)
鶏卵 100万人分 (一人当たり年間消費量20.2kg)

かながわ農林水令和5年度版(神奈川県環境農政局より)



かながわ畜産の日とは

神奈川県畜産は横浜開港時の外国人を対象とした生産から160年を超える歴史があり、近年は戸数・頭数とも減少していますが、畜産物のブランド化や6次産業化の取組などがさかんです。

かながわの畜産が、これまで、県民のご理解のもと発展してきたことに感謝し、これからも、県民の期待に応える気持ちを込めて、本年11月5日、「かながわ畜産の日」を定め(※)、この日に記念イベントを開催するとともに、11月に県内各地で開催されるイベントなどを通じて神奈川県の畜産をPRすることで、県民の神奈川の畜産に対する理解を深め、神奈川の畜産の持続的な発展に繋がります。

※一般社団法人日本記念日協会の登録団体は一般社団法人神奈川県畜産会です

2023年の取組は

記念イベント開催 (11月5日)

湘南台公園に県産畜産フードが大集合!

農産物直売所などでかながわの畜産をPR (11月中)

地域の大型直売所や農場の直売所がかながわの畜産をPR

子どもたちにも「かながわの畜産」を知ってほしい (11月中)

学校給食への県産畜産物の提供に併せて食育活動等を実施



2023年の取組に関する情報はこちらをご覧ください

<http://kanagawa.lin.gr.jp>



【お問い合わせ】 一般社団法人神奈川県畜産会 Tel 045-761-4191

授業で配布した「かながわ畜産の日」チラシ(抜粋)